

VIII. 銀行勘定における金利リスク

銀行勘定における金利リスクに関して内部管理上使用した金利ショックに対する損益又は経済価値の増減額

【連結】

連結子会社の金利リスク量は僅少であるため、連結での金利ショックに対する経済価値の増減額の算出は行っておりません。

【単体】

(単位：百万円)		(単位：百万円)	
平成20年度中間期末		平成21年度中間期末	
金利リスク合計額	62,862	金利リスク合計額	17,744
国内債券	49,132	国内債券、円貨預貸金等	14,324
外国債券	2,441	外国債券	3,420
円貨預貸金等	11,289		

(注) 平成21年度より、国内債券と円貨預貸金等を合算してリスク量を算出しております。

《使用した金利ショック》

VaR (バリュー・アット・リスク)

保有期間40日、観測期間5年、信頼区間99.9%

《VaRとは》

過去のデータを統計的に分析し、将来の一定期間（保有期間）において一定確率（信頼区間）で起こりうる最大の損失額を計測するリスク管理手法です。

VaRの算出結果は、保有期間、信頼区間、データの計測手法によって異なります。

《コア預金の取扱い》

当行では、平成21年度から内部モデルによりコア預金を算定しております。

具体的には、普通預金などの満期のない流動性預金については、預金種別や残高階層別の過去の預金残高推移を統計的に解析し、将来預金残高推移を保守的に推計することで実質的な満期を計測しております。

なお、推計値について定期的にバックテストを行うなど、モデルの検証等は十分に行っております。